

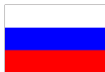
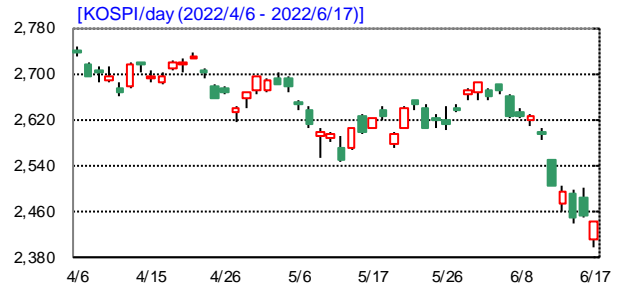


【韓国】 総合指数は 6.0%安と大幅に続落、今週は自律反発狙いの買いに期待

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 6.0%安と続落。週明け 13 日は 3.5%安と大幅安。米物価統計を受けて利上げへの警戒感が強まった。14 日は FOMC を前に様子見ムードが強まり、終値で心理的節目の 2500 ポイントを割った。15 日も続落したが、トラック運転手の労働組合が政府と合意し、ストライキが終結したことを受け、自動車銘柄が買われた。一方、人気男性アイドルグループの BTS がグループとしての活動休止を発表し、所属事務所 HYBE の株価が 25%近く急落。16 日はイベント通過による安心感で 8 営業日ぶりに反発したが、17 日は世界的な景気後退懸念で反落し、20 年 11 月 6 日以来、約 1 年 7 カ月ぶり安値で引けた。今週も軟調な推移が予想されるが、自律反発狙いの買いは期待できそうだ。23 日に PPI が発表される予定。

▼指数チャート

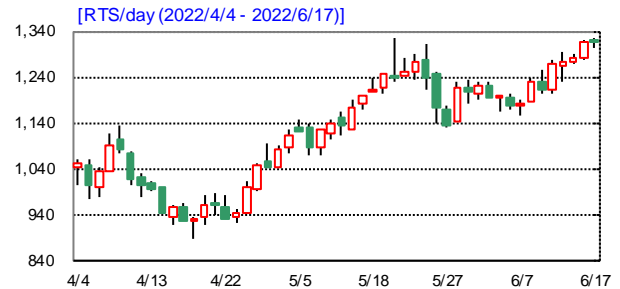


【ロシア】 RTS 指数は 3.7%高と大幅に 3 週続伸、今週は原油・為替相場が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は 3.7%高と大幅に 3 週続伸。プーチン大統領が経済の好調を強調したことが支援となった。指数は 3 連休明けの 14-15 日に小幅に続伸すると、16 日に 2.8%高と大幅に上昇。年次経済フォーラムで、中銀総裁がルーブルの変動相場制の維持や資本規制のさらなる緩和を示唆し、第 1 副首相がルーブルは高過ぎると発言したものの、プーチン大統領が国内経済の好調ぶりを強調し、株価と通貨がともに上昇した。ルーブル建ての MOEX 指数は 3.0%高で、ルーブルは対ドルで 3.1%上昇した。個別ではエネルギーのノバテクが 9.7%、ルクオイルが 7.3%、金融のズベルバンク・オブ・ロシアが 4.9% 上昇した一方、資源のルサルが 2.4%、ノリリスク・ニッケルが 1.5%下落した。今週は原油やルーブル相場が焦点か。

▼指数チャート



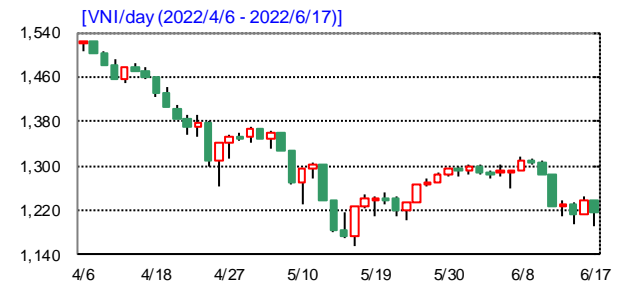
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 5.2%安と大幅に続落、今週は上値の重い展開

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 5.2%安と大幅に続落。米国の為替報告書でウォッチリストに指定されたことに加え、海外株安が重しとなった。前週末に売りが強まった VN 指数は週明け 13 日に前週末比 4.4%安と急落。米国が為替報告書でベトナムを監視対象に指定する中、日本株や中国株が下落したことでセンチメントが悪化し、幅広い銘柄に売りが強まった。その後は一進一退の展開となったが、主要国の金融引き締め策による景気減速懸念が上値を圧迫した。個別銘柄ではエネルギーのペトロベトナム・ガスが 12.9%、公益のペトロベトナム電力総社が 7.3%上昇した一方、SSI 証券が 26.0%安、金融の軍隊商業銀行が 15.3%安、バトインバンクが 13.1%安、ゴム製品のベトナム・ラバーが 13.0%安と急落した。今週は上値の重い展開か。

▼指数チャート

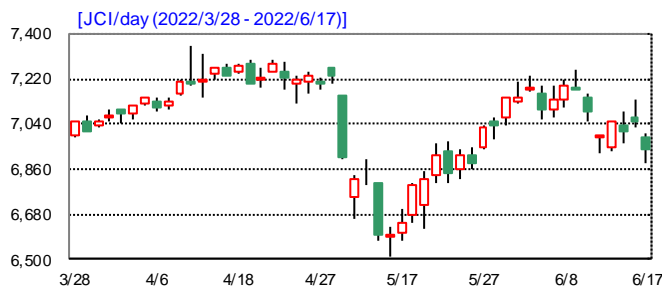


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.1%安、今週は 23 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で 2.1%安と続落。世界的な景気減速への懸念が指数を押し下げた。週初の 13 日は、米国の 5 月のインフレ率が市場予想を上回り、FRB が利上げを加速するとの見方が強まった影響で売られ、指数は寄り付きから終始 7000 ポイントを割り込み、終値では前営業日比 1.3%安と 3 日続落。14 日に終値でこの水準を回復すると、16 日まで一進一退の値動きが続いた後、17 日は米国に続き、英国でも利上げが決まったことで売られ、前日比 1.6%安と反落して引けた。今週は 23 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、政策金利は 0.25%引き上げられるとの見方が優勢。

▼指数チャート

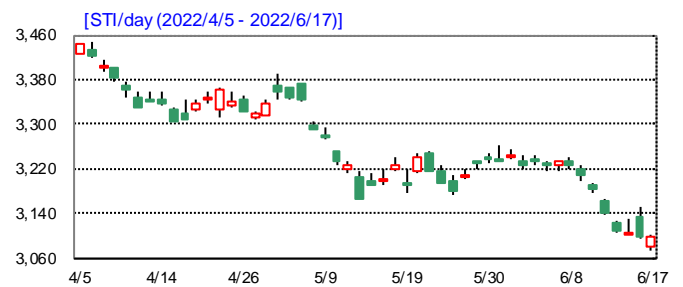


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.6%安、今週は 3100 ポイント台回復に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で 2.6%安と続落。週後半に終値で 3100 ポイントを割り込んだ。週初の 13 日は、前週末の NY ダウが大幅下落した流れで前営業日比 1.3%安と 4 日続落。14 日は世界経済の後退に対する警戒感が高まり、前日から 1.0%下落した。15 日は米 FOMC 後の声明発表を目前に控えた様子見で売られると、16 日は FRB が 0.75%の利上げを決定し、銀行株の一角が買われたものの補えず、指数は終値で約 6 カ月ぶりの安値を更新。ただ、17 日は 5 月の非石油地場輸出が市場予想から上振れた効果で、8 日ぶりに小幅反発して引けた。今週は 23 日に 5 月の CPI、24 日に鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート

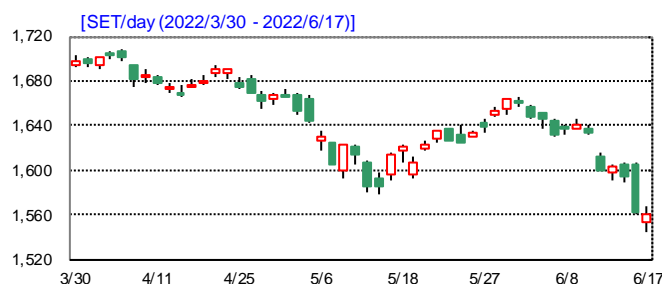


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 4.5%安、世界的な利上げの動きを嫌気

SET 指数は週間で 4.5%安と続落。軟調な値動きが続き、週半ば以降は終値で 1600 ポイントを割り込む展開となった。週初の 13 日は、米 FRB と英イングランド銀行（中央銀行）の利上げが見込まれる中で買い控えの動きが広がり、指数は前営業日比 2.0%安と続落。14 日は小幅反発した一方、15 日は米国の利上げ幅拡大に対する警戒感が高まった影響で反落すると、16 日は米国で 1994 年以来の大幅利上げが決まったことが売り材料となり、指数は終値で前日比 2.0%安と続落した。17 日も世界経済の先行き不安が嫌気され、3 日続落して引けている。今週は 22 日に 5 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。

▼指数チャート

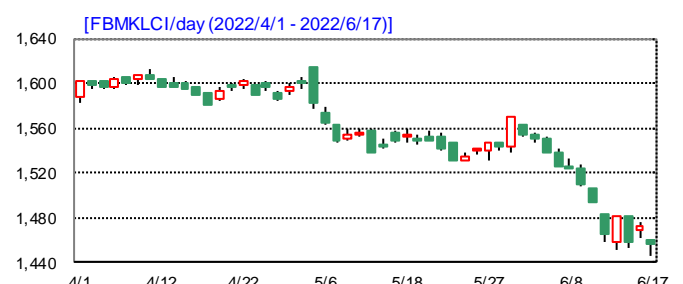


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.5%安、今週は 24 日に 5 月の CPI 発表

クアラルンプール総合指数は週間で 2.5%安と 4 週続落。1 週間を通じて 1400 ポイント台での取引が続いた。週初の 13 日は前週から下げ止まらず、指数は前営業日比 1.9%安と 8 営業日続落。14 日は安値拾いの買いで前日比 1.1%高と反発したが、15 日は利益確定売りで 1.5%安と反落した。16 日はマラヤン・バンキング（メイバンク）などの大型株の一角が指数上昇をけん引した一方、17 日は世界的に政策金利の引き上げへの動きが広がり、景気後退への警戒感が高まったほか、5 月の貿易収支が市場予想を下回ったことも売り材料視され、前日比 1.1%安と反落している。今週は 24 日に 5 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。